

2026 年 1 月 30 日

新入生保護者説明会 資料

《ご入学前にご一読ください》



町田市立町田第三中学校

校長 鈴木 英 顕

第三中学校では、

## 5つの大切を心に「登校を楽しみにできる」学校

を目指す学校像として、教育活動を行います。

### 教育目標

- 自他の違いを尊重し優しい人になろう
- 誰にも公平で、正しく判断できる人になろう
- 進んで学び続け、楽しい学校と豊かな未来をつくる人になろう
- 日本の良き伝統を受け継ぎ、豊かな文化を創造する人になろう



校訓 「敬愛」「創造」「協力」



2025/5/31 体育大会にて

## 1 目指す学校像

5つの大切（自分・相手・礼儀・時間・もの）を心に、『登校を楽しみにできる』学校

- (1)「笑顔」と「あいさつ」に満ちあふれた学校
- (2)「生き抜く力」を身に付け、可能性を伸ばし、将来の夢を育める学校
- (3)コミュニティ・スクールとして、地域・保護者に信頼され、連携して共創できる学校



2025/10/2 合唱コンクール会場準備

## 2 育てたい生徒像

- (1)一人一人の違いを尊重し、自分も仲間も大切にできる生徒(敬愛)
- (2)三中の伝統を受け継ぎ、豊かな発想と自分らしさを大切に行動できる生徒(創造)
- (3)責任をもち、正しく判断し行動できる生徒
- (4)協力・社会貢献することに喜びがもてる生徒(協力)
- (5)健康な生活を送るために、規則正しい生活習慣を身に付けた生徒



理科の実験の様子

## 3 教育活動で大切にしていること 褒めて伸ばし、「社会で『生き抜く力』を育成」

「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」（知・徳・体）のバランスと、「学習意欲」「基礎的・基本的な知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」を身に付けることを大切にします。

そのためには、①「課題発見力」「課題解決力」「協働する力」「感情のコントロール力」「継続する力」等の非認知スキルを習得させて、交渉力、調停力、胆力、共感力、想像力など汎用性の高い知的能力を育ませます。

また、②自己肯定感を高め、激しく変化する社会を「生き抜くための力」を身に付けさせる指導を大切にします。

### 非認知スキルとは

教育目標の下、本校では「登校を楽しみにできる」学校を目指します。

全ての三中生にとって、学校生活が楽しく笑顔で生活ができ、仲間と笑い声が絶えない学校にしたいと考えております。そのためには、健康で安心・安全な学校づくりが必要です。

また、学校は集団で生活をする場所です。個人や、家庭とはまた違った環境です。

嫌がらせやいじめがなく、学習内容（授業）がよく分かり、仲間と一生懸命に行事などに取り組むことができる学校でありたいと考えます。

集団生活では、大きな喜びが生まれることがあります。しかし、時として、つらいことや悲しいことがおこらないとも限りません。それは、大人の社会でも同じことです。



2026/1/15～17 1年生移動教室

ですから大人になったときに、そのような場面を自分の力で調整し、粘り強く解決していく力が求められます。

時として遭遇する、つらいこと、悲しいことを乗り越えていく力を身に付けることも、集団生活を送る中で必要だということです。そのためには、教職員や家庭に見守られる中で、少しの我慢をする必要もあります。



波線部分の力を身に付けるためには、3の①の「非認知スキル」を高めることがとても有効です。

この力を高めることによって、充実した学校生活を過ごす基礎がつくられ、自分に対して自信をもつことができ、自己肯定感が高まります。そしてそれは、やり抜く力（生き抜く力）になって達成感や満足感を満たし、学校生活がより楽しく充実したものになります。さらに、授業や行事に前向きに取り組むことにつながり、『『登校を楽しみにできる』子ども』に変容していくはずです。やり抜く力（生き抜く力）は、先の見通しがつきにくい社会で生きていくために、必要な力でもあります。

## 自己肯定感を育てる

この「非認知スキル」と同様に、3の②の「自己肯定感を育てる」ことを、ぜひご家庭でも一緒に考えていただきたいと思います。

すでに中学生になったお子さまの自己肯定感を育てることは、難しいように思えます。しかし、決してそうではありません。さまざまな刺激に敏感な年頃だからこそ、小さな働きかけや行動によって大きく響き、成果が期待できます。

むしろ、大事なことは「非認知能力」を育てるためには、愛情や優しさと安心できる環境が必要です。

「肯定し受容する愛情と、子どもがのびのびと表現できるような安心できる環境」があれば、困難に立ち向かえる勇気と自信をもつことができるのです。

「一緒に困難を乗り越えてくれる人がある」と感じられる安心感も大切です。

日常生活の中で、愛情をもって応援をすることで、お子さまが安心感をもち、本当に大変な時には一緒に乗り越えてくれる人があると感じられれば、「非認知能力」が育まれやすくなります。

具体的なお話をいたします。

まずは、安易に「ダメ」と言わないことです。

思春期を迎えたお子さまの自己肯定感を育てるのに、何から始めたらよいかわかったら、まずはここからだと思います。

単なるダメ出しが「あの人は、はっきりものを言って育てる。」というように、肯定的な評価を受けることがあります。しかし、代案のないダメ出しが、新しい物事を生み出すことはほとんどありません。「ダメ」が思考と関係性を閉ざしてしまいます。

2025/10/23 連合体育大会

二番目のポイントは、わが子の比較対象は、いつでも「（昔の）わが子」にすることです。

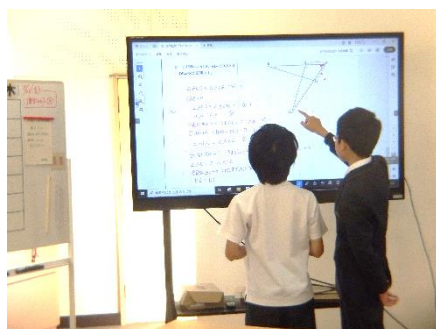
子育てにおいて、比較することはいけないと言われがちですが、それは比較の仕方を工夫すればよいのです。たいていの場合は、私たちは子どもを、兄弟姉妹、友達、過去の自分などと比べてしまうものです。

このような比較が、お子さまにとってプラスになることは多くはないでしょう。

基本は、子どもは「（時間軸として）縦に比較」とするとよいと考えます。これは、その子ども自身の3日前、1ヵ月前、3ヵ月前、半年前、1年前と比較するやり方です。過去の状態と比較して、よくなった部分を具体的に褒めるのです。つまり、比較対象はいつも過去のお子さま自身となります。

一人一人は千差万別、十人十色ですから、成長の早さには凹凸があります。ある部分が早く成長しても、ある部分は遅いということは、普通にあるものです。幼い頃を振り返っても、「立ち上がるのは早かったけれど、言葉は遅かった」「文字を書くのは早かったけれど、計算は苦手だった」などの違いがあったのではないのでしょうか。

「他人との比較」は、激励するどころか劣等感をあおる危険性を含んでいます。



授業の一コマ

私たちはともすると、優秀な兄弟姉妹や友達、居もしない理想の子どもと、わが子を比べてしまいます。それでは、わが子は苦しくなるばかりです。比べるなら、過去のその子どもと比較して、前よりもよくなったところを見つけて褒めることが大事です。そうすれば、お子さま自身が自らの成長を確認でき、自己肯定感や自信につながります。

赤ちゃんのときには、「『ニコ』っと微笑んだ」「寝返りができるようになった」「ハイハイできるようになった」「つかまり立ちができるようになった」などと、お子さまの縦の成長の中に喜びを見出しました。いつしかこの気持ちを忘れてしまい、他人との（時間軸として横の）比較になってしまっているのです。

たいていの子どもは、自分自身の苦手なところは分かっています。もし、それを家庭でも横の比較（他人との比較）で言われてしまうと、気持ちの持っていくようがありません。足が遅い子どもに向かって、「お兄ちゃんはリレーの選手だったのに…」「お姉さんは小学生の頃、いつもアンカーだった。」などと話したところで、その子どもにとってプラスになるどころか、自己肯定感を大きく低下させてしまいかねません。

その子ども自身、何も言われなくても、「足が遅い」ということに関するコンプレックスをイヤというほど感じています。わざわざ周りが、それを言葉にする必要はないということです。

ですから、「伸びた部分」を「具体的に褒める」ことが重要です。

保護者としてできることは、リレーの選手になれないことを嘆いたり、徒競走の順位を比較したりすることではなく、「去年より練習のタイムが上がっているね。」などと、具体的に褒めることです。去年の100メートル走の記録をメモしておいて、それから何秒伸びたかなど、数値で伝えられるとより具体的に伝わると思います。

このように具体的に褒めると、子どもは容易に納得することができます。そのために必要なのは、お子さまのことをよく観ることです。そうすれば、小さな成長（でも、子どもにとっては大きな努力の賜物）も見逃さないでしょう。

このことは、私たち教職員も意識しなければならないことは言うまでもありません。

例えば、きょう学校でお子さまが「努力した」「向上した」などの具体的な成長を教職員が褒めて、その情報を家庭で共有し、時間を置かずに家庭でも褒めることができれば、子どもの自己肯定感は一気に高まります。

この意味でも、家庭と学校が同じ情報を分かち合い、同じ歩調で指導・支援しながら子どもを育てることが肝心です。

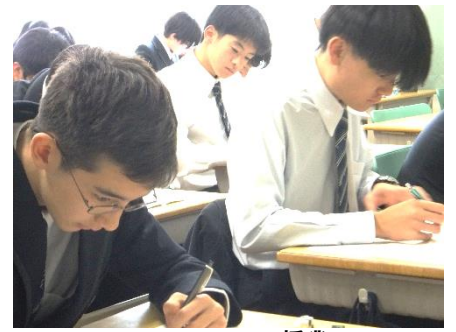
情報は必ずしもよいものばかりとは限りませんが、マイナスの情報もダメ出しのような指導ではなく、同じ足並みで励ましができると指導の効果が期待でき、成長につながります。

大事なことは、家庭と学校が双方の考えを理解した上で、同じスタンスで子どもに接したときに、最も教育効果が表れます。「登校を楽しみにできる」子どもを、保護者の皆様と一緒に育てていきたいと存じます。万一、入学前にお困りごとや疑問な

どがございましたら、まずは、第三中学校にご相談ください。お話を伺わせていただきます。

それでは、4月にお子さまが入学されることを、教職員一同心よりお待ちしております。そして3年間、責任をもってお子様の成長の支援をさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。



授業の一コマ



美化デー（大掃除）



2026/1/8 地域清掃後のご褒美のやきいも